

## 高等学校1年 特別活動（ホームルーム活動）の時間 学習指導案

### 「フィルタリングを外さない強い心と行動力を身に付ける」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 濱本 昌宏

#### 1 主題名

「フィルタリング解除にNO！」

#### 2 主題について

##### (1) ねらいについて

18歳未満の子どもが使用する携帯電話にはフィルタリングが設定されているが、保護者から不要の申し出があった場合にはそれを解除することができるようになっている。子ども達は、「みんな外している」「不便で自由に使えない」などと言って保護者に解除を頼み込む者も少なくない。そして、小・中・高等学校と学年が上がるにつれてその設定割合も低くなっている。多くの子どもたちが高校入学を機に携帯電話を購入しているという現状を踏まえ、携帯電話を持って間もないこの時期にフィルタリングについて十分に理解させることは大変重要なことである。そして、フィルタリングをかけていない者にはかけさせ、かけている者については、以後絶対に外さないようにしたい。フィルタリングの必要性を考えながら情報モラルに関する適切な意志決定と行動選択ができる生徒の育成めざす。

##### (2) 生徒の実態について

○平成22年4月に入学したばかりの高校1年生、男子〇〇人、女子〇〇人の計〇〇人のクラスである。

活発な生徒が多く、授業中は積極的に発言をする生徒も多い。

〇〇〇人中〇〇人が自分専用の携帯電話を持っている。ほとんどの生徒が高校入学を機に購入しており、〇〇人中〇〇人が携帯電話を所持してまだ1年が経っていない。

○携帯電話を持っている〇〇人中3人(男子〇人、女子〇人)がフィルタリングを解除している。

○ほとんどの生徒がフィルタリングをかけているが、フィルタリングの内容を十分理解していない生徒も多い。入学当初の二者面談で、「フィルタリングはかけていますか？」という問いかけに「それって何ですか」と返事をする生徒も多かった。そこで、フィルタリングの説明をすると「あ～、そのことですか。それならたぶんかけています」と答えた。

○平成22年7月に実施した携帯電話に関するアンケート結果は次のとおりである。(単位：人)

	質 問 事 項	回 答 項 目	男	女	計
Q1	・家庭でケータイに関するルールや約束事を決めて いますか？	ア 決めている	○	○	○
		イ 決めていない	○	○	○
Q2	・ゲームサイトを利用したことがありますか？	ア よく利用している	○	○	○
		イ 利用したことがある	○	○	○
		ア 利用したことはない	○	○	○
Q3	・ケータイの掲示板に書き込みをしたことがありますか？	ア ある	○	○	○

	ますか？	ア ない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q 4	・自分のプロフまたはブログを持っていますか？	ア 持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		ア 持っていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q 5	・これまでに、ケータイを持っていることで不安や不快感を得たことがありますか？	ア ある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		イ ない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

### (3) 資料について

ア 警察庁の平成22年2月18日付広報資料「平成21年中のいわゆる出会い系サイトに関係した事件の検挙状況について」

平成21年中の出会い系サイトに関する事件の検挙件数等を紹介している。ここでは、出会い系サイトへのアクセス手段のうち99.3%が携帯電話であることに着目させる。出会い系サイトを通じて殺人や強盗、集団強姦にまで発展した犯罪事例を紹介し、事件から身を守るためにはフィルタリングが必要であることを意識付けるための資料として活用する。

イ 文部科学省平成21年5月15日付発表【子どもの携帯電話等の利用に関する調査結果】

文部科学省は、平成20年11月21日から12月15日にかけて全国の小学6年生、中学2年生、高校2年生の児童生徒16,893人とその保護者を対象に携帯電話に関する調査を実施した。その調査結果によると、小学6年生では「インターネットが使えない機種・設定になっている。または、フィルタリングをしている」が63.3%であったが、その後、中学2年、高校2年では次第にその割合が減少している。また、フィルタリングをしている子どもはしていない子どもに比べ、携帯電話に関わるトラブルを経験した割合が全般的に低くなっている。携帯電話の使用頻度が高まる高校生の時期こそフィルタリングが必要であることを理解させる資料として活用する。

ウ 熊本日日新聞掲載記事

最近、県内で発生した2つの事件を紹介し、出会い系サイトが身近な問題であるという危機感を持たせる資料として活用する。その反面、身近な場所で発生した事件であったため、一部の生徒に不快感を与える可能性があり、事件に関与した人物は特定できないよう配慮する。

### (4) 指導にあたって

ア 生徒自らが考える授業

6人1組(7グループ)に分かれて、班ごとにロールプレイングを行う。ワークシートで自己評価と他者評価を行い、フィルタリングの解除を誘う側と誘われる側の気持ちを理解させる。ロールプレイングが単なるお芝居ではなく、現実味のあるものであること。そして、自分の対応や相手の気持ちについてよく考えてみることに重点を置く。

イ 保護者への啓発を含めた事後指導の充実

この授業では、フィルタリングの重要性を認識させ、フィルタリングをかけることをねらいとしているが、フィルタリングをかけることで安全性は完全に確保できるとは言い切れない。そこで、情報社会特有のモラルやマナーを育てるために必要な情報モラル教育の継続的な指導が今後必要不可欠である。併せて、保護者に対してフィルタリングに関する理解と協力を得るために授業の様子を紹介したクラス便りやフィルタリングの広報資料を配付するなどの啓発活動も行っていく。

### (5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「情報モラル指導モデルカリキュラム」分類4「情報セキュリティ」g5-2「情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる」と関連した授業である。

イ 年1回のアンケートや月1回のクラス便りを通して、継続的かつ日常的な指導に取り組む。

ウ クラス便りや学級懇談会等で啓発を行い、保護者と連携して取り組む。

### 3 本時の学習（1／1時間）

(1) 目標

高校を卒業するまでの期間、フィルタリングを外さない強い心と行動力を身に付ける。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と生徒の反応 (T=教師、S=生徒)	教師の指導と評価	備考
導入	25分	1. 本時の学習活動を知る。 【一斉】	T. 「フィルタリングは必要 と思いますか」 S. 「必要とは思わない」と 答える生徒が多い。	・挙手をさせ導入段階での 実態把握を行う。 【知識・理解】	パワー ポイン ト
		2. フィルタリングのメリッ トとデメリットを考える。 【一斉】	T. 「フィルタリングのメリ ットとデメリットを考え てみましょう」 S. 「フィルタリングは不便 な面が多く、安全性も十 分に保てないので無意 味」と思う生徒が多い。	・「自由にアクセスできな い」という意見に注目さ せ、自由な行動には責任 が伴うことを説明する。 【思考・判断】	ワーク シート
		3. フィルタリングの基礎知 識を学ぶ。	S. フィルタリングについ て知らなかったことが多 いことに気付く。	・ブラックリスト方式では 有害サイトを完全に制 限することができない ことを説明する。【知 識・理解】	
		4. 資料1の事件検挙事例と 新聞記事を読んでこれらの 事件の問題点と対策を考え る。【一斉】	T. 「これらの事件に遭わな いために必要なことをで きるだけ具体的に考えて みましょう」 S. 「これらの事件はフィル タリングによって回避で きたかもしれない」と思 う。	・全ての事件が携帯電話の サイトを通じて発生し ていることに注目させ る。 ・県内の事件については、 地域や個人が特定でき ないように配慮する。 【思考・判断】	資料1
		5. 資料2の「フィルタリン グの使用状況」と、「フィル タリングの使用有無と携帯 電話に関わるトラブルの経 験の関係」について理解す る。【一斉】	S. 今、自分たちに携帯電 話に関するトラブルがな いのはフィルタリングの おかげであることに気付 き、改めてフィルタリン グの必要性を実感する。	・愛携家という造語を用い て、フィルタリングの必 要性を説く。フィルタリ ングの必要性について 十分理解したかどうか を挙手によって確認す る。【知識・理解】	資料2
		フィルタリングの必要性を理解する。			

展 開	20 分	6. ロールプレイングの方法とこれからの学習活動の進め方を理解し、各班で役割を決める。【グループ】	S. 演技を苦手とする生徒、得意気になる生徒などが混同し、ざわついた雰囲気となることが予想される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6人1組の7班に分ける。席は班ごとに向き合わせる。役割決めは、生徒の自主性に任せる。【知識・理解】</li> </ul>	パワーポイント
		7. ロールプレイングを行う。【グループ】 (1)演技1 ①演技を行う(1分) A: フィルタリングの解除を誘われる子 B・C: フィルタリングの解除を誘う子 D・E・F: 見学 ②演技者は自己評価、見学者は他者評価を行う。(2分) (2)演技2 ①演技を行う(1分) D: フィルタリングの解除を誘われる子 E・F: フィルタリングの解除を誘う子 A・B・C: 見学 ②演技者は自己評価、見学者は他者評価を行う。(2分)	<p>S. 演技者は、それぞれの役割を演じ、その立場で感じた嫌悪感や罪悪感などを体感する。また、演技者は、他者評価を受けて日頃気付かない新しい自分を発見する場合もある。</p> <p>S. 見学者は、演技者の気持ちを洞察したり、誘惑を回避する新たな方法を発見したりして学習活動に対する参加意識が高まる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演技を始める前にフィルタリングを誘う側は、どのように誘うかを2人で話し合わせる。</li> <li>・演技時間や評価の時間は、教師が計測する。</li> <li>・臨場感を出すために個人所有の携帯電話を持たせる。携帯電話の電源は切らせておく。</li> <li>・見学者は、演技者の演技力を評価するのではなく、演技する立場の内面を洞察し、回避の仕方や言葉の内容に着眼するよう指導する。【関心・意欲・態度】</li> <li>【思考・判断】</li> </ul>	携帯電話 ワークシート ストップウォッチ
		8. 数名の生徒が自己評価、他者評価を発表する。【一斉】	S. 級友の意見に共感する。また、新たな考えの発見に驚く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの意見を尊重し合うようにする。【技能・表現】</li> </ul>	
終 末	5 分	9. 感想を書く。【一斉】	S. 本時の内容を振り返り、改めてフィルタリングの必要性を実感する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文は、今後クラス便り等に掲載し、保護者に知らせることを伝える。【思考・判断】</li> </ul>	ワークシート
		10. 本時のまとめを聞く。【一斉】	S. フィルタリングの必要性を強く感じ、今後も解除しないと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手をさせて終末段階での意識確認を行う。【知識・理解】</li> </ul>	

評価  
友人から「フィルタリングを外さないか」と誘われたとき、その誘惑を回避する方法を理解することができたか。